

パレット保育園・高田

2015年度 保育所自己評価票

評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類 I - 1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成

評価項目 I - 1 - (1)

保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したのようになっており、全職員が理解し、実践しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したのとなっている。	
	<input type="radio"/> 全職員が基本方針を理解している。	
	<input type="radio"/> サービスの実施内容は、保育の基本方針に沿っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ用保育ハンドブックを作成し、掲示してある ・大きな家族を構成するにあたり、ニックネームで呼び合う、年齢の垣根なく交流保育が常時行われている 		

評価項目 I - 1 - (2)

保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育課程は子どもの最善の利益を第一義にしている。	
	<input type="radio"/> 保育の基本方針や家庭の状況、地域の実態、周囲の環境を考慮して作成している。	
	<input type="radio"/> 保育課程の作成にあたっては、全職員が関わっている。	
	<input type="radio"/> 保育課程は入園時や年度当初には必ず保護者に説明している。また、改定した時には随時保護者に説明している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに、年間計画、保育課程等、全ての書類の確認をし意見交換をする ・入園のしおりにより保護者へ周知させている 		

評価項目 I - 1 - (3)

日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育課程に基づき、年齢ごとに指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 理解できる子どもには、必要なことをきちんと説明し、納得できることを大切にしている。	
	<input type="radio"/> 態度・表情などから子どもの意思を汲み取り、言語化できる子どもからは意見・要望を聞いている。	
	<input type="radio"/> 子どもの意見・意思を指導計画の見直しに活かし、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるような指導計画となっており、計画には柔軟性を持たせている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・会議時などで月案、週案に指導計画を落とし込み作成 ・週末ミーティングで子どもの様子を職員間で確認 		

評価分類 I - 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施

評価項目 I - 2 - (1)

入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者に面接している。	
	<input type="radio"/> 子どもの様子をよく観察している。	
	<input type="radio"/> 入園までの生育歴や家庭での状況を把握している。	
	<input type="radio"/> 面接時に把握された記録は、日々の保育に活かされている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
入園時面談、入園説明、入園時書類によって把握している		

評価項目 I - 2 - (2)

新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 短縮保育（ならし保育）が必要な場合は保護者への説明を十分行っている。	
	<input type="radio"/> 0、1歳の新入園児に対しては個別に主担当保育者が決まっている。	
	<input type="radio"/> 子どもが心理的拠り所とする物の持ち込みができる。	
	<input type="radio"/> 子どもの生活の連続性の視点から、保護者へのていねいな連絡をノートでしている。	
	<input type="radio"/> 在園児への配慮がなされている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会にて説明、書類でも聞き取りあり ・連絡ノートにて伝達 ・日々の保育にて対応 		

評価項目 I - 2 - (3)

子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、複数の職員が参画して作成している。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、保護者の意向も反映している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・運営要項、保育マニュアル実践シートにてスタッフより聞き取り保育に反映させている ・ご意見箱やアンケートを保護者より回収し、保育に反映させている 		

評価分類 I - 3 快適な施設環境の確保

評価項目 I - 3 - (1)

子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育園の屋内・外とも、常に清潔に保たれている。	
	<input type="radio"/> 通風・換気等が確保され、気になる臭いを取り除く工夫をしている。	
	<input type="radio"/> 施設内の温・湿度の管理が日々適切に行われている。	
	<input type="radio"/> 陽光を十分取り入れるよう配慮している。	
<input type="radio"/> 音楽や保育者の声などが騒音にならないよう、配慮している。		
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・朝、夕と掃除の担当があり実施している ・通風窓あり、汚物専用ゴミ箱に個別に袋に入れている ・日誌等のチェックに温度管理を記載している 		

評価項目 I - 3 - (2)

沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 沐浴設備がある（ただし、0歳児保育実施施設）	
	<input type="radio"/> 温水シャワーの設備がある。	
	<input type="radio"/> 沐浴・温水シャワー等の設備の管理や清掃が十分に行われている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児クラスに設置 ・最低毎月一度は清掃チェック 		

評価項目 I - 3 - (3)

子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 低年齢児には、小集団保育が行われるよう、保育室の使い方を工夫している。	
	<input type="radio"/> 食べる・寝るなどの機能別の空間を確保している。	
	<input type="radio"/> 屋内に異年齢児間の交流の場がある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・衝立などを使用して保育室を分ける ・お昼寝用のマットを敷き、その上に布団を敷くようにしている ・朝や夕方に合同保育の時間を過ごす部屋がある ・夕方の時間に、幼児乳児を分けて遊びに危険がないように工夫をしている 		

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力

評価項目 I-4-(1)

子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 3歳未満児については、個別指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 幼児についても、特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 個別の目標・計画は定期的（月1回を目安）に見直すのみでなく、子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しを行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> 個人別月案を作成し、障害児や気になる子についても同様に個別指導計画を作成している 毎日の昼礼や週末mtgで発達状況等を確認、対応の指示をしている 特別支援児などの同意をもらって個別指導計画を作成している 		

評価項目 I-4-(2)

子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもや家庭の個別の状況・要望を決められた書式に記録している。	
	<input type="radio"/> 入園後の子どもの成長発達記録がある。	
	<input type="radio"/> 子どもの記録内容は全職員が共有できるしくみになっている。	
B	保育所児童保育要録を小学校に送付している。その上でAの2つ以上に該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 成長発達記録に記録 共有棚にて保管 年度末会議時等にて、申し送り時間を設定 保育指針を活用している 		

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み

評価項目 I-5-(1)

特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 個別のケースについて会議で話し合わせ、記録がある。	
	<input type="radio"/> 最新の情報を職員間で学習し、保育に活かしている。	
B	特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢がある。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 気になることは常時、昼礼、週末mtg、月会議等で話し合い確認している 会議議事録等ファイリングし、共有棚にて保管 保育指針を活用している 		

評価項目 I-5-(2)

障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> バリアフリーなど、障害児保育のための環境整備に配慮している。	
	<input type="radio"/> 保護者の同意を得て、医療機関や専門機関から助言や情報が得られる体制をとっている。	
	<input type="radio"/> 障害の特性を考慮した個別指導計画が立てられている。	
	<input type="radio"/> 障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができている。	
<input type="radio"/> 障害児と障害のない子どもとの関わりに配慮をしている。		
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
現在、障害児がいないが、体制は整えている		

評価項目 I-5-(3)

虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 虐待の定義が全職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 虐待が明白になった場合に、関係機関に迅速に通告・相談する体制を整えている。	
	<input type="radio"/> 疑わしい場合や見守りが必要な場合は関係機関との連携をとっている。	
<input type="radio"/> 家庭支援の必要な保護者を援助し、虐待の予防に配慮している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待チェックリストや保育マニュアルにて周知している ・ 現在関係機関との連携をしつつ、家庭支援をかねた保育を実施している ・ 保育指針を活用している 		

評価項目 I-5-(4)

アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どものかかりつけ医の指示を受け、適切な対応を行っている。	
	<input type="radio"/> 全職員にアレルギー疾患についての必要な知識や情報が周知されている。	
	<input type="radio"/> 食物アレルギーにおいては、保護者との連携を密にし、代替食を提供している。	
<input type="radio"/> 代替食・除去食を提供する場合は、誤食事故を防止するため専用トレイや専用食器、名札等を使用している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本は除去食対応をし、除去で対応できない食品の場合は、(卵アレルギーで卵焼きなど)、代替食対応 ・ 配膳の際にプレートに乗せ、色の違うプレートに名前カードを乗せ分かりやすくし、そこに1人分全てのメニューを乗せて配膳する ・ 献立チェックは給食スタッフ、施設長を経て、最終的に法人の栄養士が確認をするので、3重チェックを行っている ・ 乳児クラスは、程度によってはテーブルを離れた対応もする ・ 入園児の聞き取り調査や離乳食面談により、アレルギー食品の確認をする ・ 除去食の設定、解除は、必ず医師の承諾書を必要とする ・ 日々の昼礼や週末 m t g で変更があるごとに確認伝達をしている ・ 代替食保管チェックを使用している 		

評価項目 I-5-(5)

外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重している。	
	○ 文化や生活習慣の違いを他の子どもたちが理解できるよう配慮している。	
	○ 意思疎通が困難な場合の対応策がある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・当園には外国籍の保護者の子ども、帰国子女は在籍していない。 ・今後このような子どもが入園した際には柔軟な対応が出来る準備が出来る。 		

評価分類 I-6 苦情解決体制

評価項目 I-6-(1)

保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 第三者委員に、直接苦情を申し立てることができる。	
	○ 保護者に対して、意見箱・懇談会・アンケート等で進んで要望や苦情を聞いている。	
	○ 自分で意見を表明するのが困難な園児や保護者に対して具体的な配慮がなされている。	
	○ 権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口を紹介している。	
B	要望・苦情を受け付ける担当者が決まっており、事前に保護者に説明されている。	
C	要望・苦情の受付窓口が明確にされていないなど、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者委員の設置等、苦情窓口をしおりにて記載 ・ 懇談会、イベント時などのアンケートを実施 		

評価項目 I-6-(2)

要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 第三者委員を交えて対応する仕組みができています。	
	○ 園単独で解決困難な場合には、外部の権利擁護機関や相談機関との連携体制がつけられている。	
	○ 要望や苦情の解決策が会議等を通じて職員に理解・周知されている。	
	○ 過去の苦情・トラブルや要望のデータを蓄積・整理し、解決に活かしている。	
B	要望や苦情を受け付け対応するためのマニュアル等文書化されたものが整備されている。	
C	マニュアル等文書化されたものが整備されておらず取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者委員等の設置 ・ 会議等で細かいことまで伝達、共有している ・ アンケートを集計し、職員だけでなく、保護者とも共有して園全体で取り組み解決している仕組みを作っている 		

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ－1 保育内容

[遊び]

評価項目Ⅱ－1－(1)

子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができてきているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもがおもちゃや教材等を自分で取り出して遊べるようになっている。	
	<input type="radio"/> 年齢や発達にふさわしい環境構成に配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ落ち着いて遊べる環境を確保している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> おもちゃ棚を設置し、園児が取りやすい環境を整えている ある程度の年齢ごとに、設置してあるおもちゃを選別している 朝、夕など自由に遊べる時間が設定されている 		

評価項目Ⅱ－1－(2)

遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの自由な発想を受け止め、それを集団活動に取り入れている。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ自由にごっこ遊びをしたり、落ち着いて一人で遊んだりしている。	
	<input type="radio"/> 一斉活動は、みんなで一緒に遊ぶ楽しさとともに、友だち関係やルールを守る等の社会性を重視して、年齢に応じて取り入れている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の意見を取り入れ、散歩先や遊びを取り入れている 体操、製作、音楽等、年齢に応じた活動を取り入れている 遊びが定まらない児童に対し、保育士が遊びに誘い興味・関心をもてるようにしている 		

評価項目Ⅱ－1－(3)

動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 栽培や飼育を通して得られる体験を、保育活動にフィードバックしている。	
	<input type="radio"/> 子どもたちが散歩等で、日常的に地域の大人や子どもたちと挨拶・会話を交わしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 今年はミニトマトを栽培、収穫し調理をしていただき、給食の一品として食育に活かしている 種まきや苗植えから栽培し、日々の水遣りや、脇芽かきなどを経験し、育てることの喜びや大変さを実感できるようにしている 身近な生物を育て、観察して様々な生態系の有様を学んでいる 戸外散歩をする際に、近隣の方と挨拶を交わす習慣が身についている 散歩は近距離だけでなく、長距離もあるけるように年齢ごとに距離を延ばし、色々な公園、色々な遊具、たくさんの自然に触れられるように行き先を配慮している 夏祭りは地域の方にビラを配布し、一緒に楽しめるよう工夫した 		

評価項目Ⅱ－１－(4)

子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	次の全てに該当する。
	○	子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現できるよう配慮している。
	○	子どもが自発的に表現するよう様々な素材を用意するなど、自由に使えるよう配慮されている。
	○	子どもが自由に歌ったり、絵を描いたりしている。
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	A
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 朝の会で歌う、月ごとの歌や、年齢に応じた歌が設定されている 自由に絵をかくたり、製作活動ができるように、工具箱や共有棚に道具が設置されている 廃材を利用して工作ができるようにしてある 		

評価項目Ⅱ－１－(5)

遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	次の全てに該当する。
	○	子ども同士のけんか等については、危険のないよう見守りながら、子ども同士で解決ができるよう援助している。
	○	異年齢の子ども同士が関わりを持てるよう配慮している。
	○	職員は、常に公平で温かい態度・言葉遣い等で子どもに接し、信頼関係を築いている。
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	A
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 幼児が縦割りクラスになっているので、必然的に異年齢交流ができるようになっている 朝、夕は必ず自由に遊べる時間が設定されている 保育マニュアルに記載し、ミーティング等で話し合い 		

評価項目Ⅱ－１－(6)

積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	次の全てに該当する。
	○	散歩や屋外活動などを積極的に取り入れている。
	○	散歩や屋外活動などを行う際には、紫外線対策やアレルギーへの対処を行っている。
	○	発達段階に応じて、運動能力を高められるような遊びの環境を意識してつくっている。
	○	子どもの既往歴や健康状態に合わせた遊びを工夫している。
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	A
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> 週3回程度は必ず戸外散歩に出ている 夏のプール時間は1クラス着替えも含めて20分程度に指定してある(猛暑日は特に) 園指定の帽子が、紫外線対策用のものを指定されている 各クラスごとに、ある程度の推奨公園が設定されているので、年長クラスは片道30分ほどの距離を散歩できている 運動プログラムを実施して、運動能力の向上につとめている プールチェックシートで、プールに入るには体調が悪い場合にチェックをしてもらい、個別に室内遊びなどで対応をしている 夕方の自由遊びの時間に、年少以上は運動遊びを取り入れ、自由に参加できるようにしている 散歩マップを作成し、各年齢に合わせた、散歩距離や、遊具等を考慮して公園などの行き先を設定している 		

[生活]

評価項目Ⅱ－１－(7)

食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士が、子どもの負担になるほどに残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。	
	<input type="radio"/> 乳児の授乳にあたっては、ほしがる時に、抱っこして声をかけながら与えるようにしている。	
	<input type="radio"/> 授乳する時や離乳食を食べさせる時は、子どものペースを尊重している。	
	<input type="radio"/> 子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしながら、適切な言葉かけや援助をしている。	
B	Aの中でいずれか3つ該当する。対象乳児がない場合は2つ該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。対象乳児がない場合は1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育マニュアルにて周知徹底 ・ 食育の一環で、調理や栽培、クイズなどをして興味関心を持てるようにしている ・ 当番を決め、配膳に対する興味関心を向けている 		

評価項目Ⅱ－１－(8)

食事の場、食材、食器等に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 季節感のある献立や食欲がわくような盛り付けなどの食事作りに配慮している。	
	<input type="radio"/> 食事の場としての雰囲気づくりに配慮している。	
	<input type="radio"/> 食材や食器の安全性に配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもの成長・発達や用途に即した食器を使用している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本にちなんだ献立などを取り入れ、食欲につなげている ・ 食材を一括管理し、運営と園とで2重のチェックを行っている ・ 子どもの成長に合わせた食器を用意し年齢ごとに分けて使用している 		

評価項目Ⅱ－１－(9)

子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの好き嫌いを把握し、盛り付けや調理方法を工夫している。	
	<input type="radio"/> 栄養士や調理担当者が、子どもたちの食事の様子を見る機会を設けている。	
	<input type="radio"/> 残食を調査記録し、献立・調理の工夫に反映させている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各クラス自由に入出入りできるようになっているので、会話をしながら様子を伺えるようにしている ・ 検食日誌を各クラスごとにチェックし、今後の調理に活かしている 		

評価項目Ⅱ－１－(10)

子どもの食生活について、家庭と連携しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 献立表を作成し、事前に配布している。	
	<input type="radio"/> 献立作成のポイントを明記した情報提供を行っている。	
	<input type="radio"/> 定期的にレシピを提示し、保護者に保育所で提供する食事に対する関心がもてるようにしている。	
<input type="radio"/> 保護者が試食できる機会等を設けて、栄養・味付け・食べ方（噛み方）等、保育所で配慮していることを知らせている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月献立表を配布 ・ 給食便りを毎月発行し、レシピ等を掲載、 ・ 見学の方なども、簡単レシピをお持ち帰りできるようにしている。 懇談会等に、給食を試食できる機会を設けている		

評価項目Ⅱ－１－(11)

午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 眠れない子ども、眠くない子どもには午睡を強要せず、静かに過ごさせるなど柔軟な対応をしている。	
	<input type="radio"/> 安心して心地よい眠りにつけるよう、午睡・休息の場を工夫している。	
	<input type="radio"/> 乳幼児突然死症候群に対する対策を行っている	
<input type="radio"/> 年長児には適当な時期から午睡を一斉活動としていない。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 眠れない子は体を休めるように、布団で横になっているだけなどの対応をする ・ 職員配置に余裕がある場合などは、お絵かきなど他の部屋での対応もする ・ おんぶ紐で眠るなどの個々の対応を行っている ・ 5分毎の睡眠、体勢、呼吸のチェックをしている 年長クラスは、1月頃から午睡をなくし、2月には完全に無くして活動し就学に備えている		

評価項目Ⅱ－１－(12)

排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 一人一人の排泄のリズムをとらえ、個人差を尊重している。	
	<input type="radio"/> トイレトレーニングは一人一人の発達状況に応じて個別に対応している。	
	<input type="radio"/> 保育所での排泄状況を保護者に伝え連携を密にしている。	
<input type="radio"/> おもらしをした子どもを激しく叱ったり、心を傷つけるような対応をしてはならないことを、全職員が認識している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育マニュアルに記載し実施している ・ 個人別にトイレトレーニングの時期を保護者と相談し行っている 		

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理

[健康管理]

評価項目Ⅱ－２－(1)

子どもの健康管理は、適切に実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの健康状態を把握している。	
	○ 既往症について常に保護者から情報を得られるように努め、対応を関係する職員に周知している。	
	○ 必要に応じて園での子どもの健康状態を保護者に伝え、降園後の対応について話し合っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育マニュアル、規定集にそって健康状態の管理等を行っている ・ 入園時の健康カード等より情報を保護者と共有し、全職員と会議等を通じて周知させている ・ お迎えの際に、健康状態での伝達事項があれば、必ず口頭で伝えるように、引継ぎノートにも記載しておく。 ・ 食後は各自の歯ブラシを使用し、仕上げ磨きを職員が行っている ・ 歯ブラシは殺菌保管庫にて園保管をしている 		

評価項目Ⅱ－２－(2)

健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 一人ひとりの健康診断・歯科健診の記録がある。	
	○ 健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝え、連携を密にしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年に決められた回数、健康診断、歯科検診を実施している ・ 健康診断結果によっては、再度検査を行うことや、事前に健診前に気になることがあれば、伺っておくなどの連携を図っている ・ 嘱託医に結果等により連絡を取っている 		

評価項目Ⅱ－２－(3)

感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応がマニュアルに明記され、保護者に周知している。	
	○ 保育中に発症した時は、保護者への連絡をすみやかにし、対応については保護者の事情も考慮している。	
	○ 感染症が発生した時は、速やかに保護者に情報提供している。	
B	感染症等への対応に関するマニュアルがある。	
C	感染症等への対応に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 園のしおりに記載し、入園説明会等で必ず伝えている ・ 電話連絡の目安をしおりに記載し、その範疇以外のことは施設長等の判断にて、連絡をしている ・ 感染症の際には、掲示板にて知らせ、お迎え時等でも口頭で伝える ・ 月間運営要項にて、最近のケガ疾病等の情報を共有している ・ 病気マニュアル等、マニュアルや書籍を常設している 		

[衛生管理]

評価項目Ⅱ－２－(4)

衛生管理が適切に行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ マニュアルは、職員参加により定期的（内容により異なるが、最低年1回を目安）に見直しを行っている。	
	○ マニュアルの内容を全職員が共有するため、定期的（採用時に1回、採用後は最低年1回）に研修を実施するなど、具体策を講じている。	
	○ マニュアルに基づき清掃等が行われ、清潔・適切な状態が保たれている。	
B	衛生管理に関するマニュアルがある。	
C	衛生管理に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育マニュアルを配布し、毎月項目ごとに全職員で見直しを行い、改訂内容を翌月に再配布、次年度には全てを盛り込んだ内容を再配布している ・ マニュアルに基づき各園の清掃が行われている 		

[安全管理]

評価項目Ⅱ－２－(5)

安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 地震等を想定し、備品等の転倒防止など安全対策を講じている。	
	○ マニュアルは、事故や災害に適切に対応しており、全職員に周知されている。	
	○ 緊急連絡体制が確立している。	
	○ 通報や連絡体制の予行演習、地域の避難場所等への誘導などの訓練を実施している。	
○ 職員が救急救命法を身につけている。		
B	安全管理に関するマニュアルがあり、Aの中で3つ以上該当する。	
C	安全管理に関するマニュアルがない。または、Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 転倒防止ツツパリ棒などで、安全対策をしている ・ 火災や地震だけでなく、不審者などの対応策をマニュアル化し毎月の訓練に盛り込んだり、マニュアルを掲示しておくなどの対応をしている ・ 救急救命法を全スタッフが取得できるように、入社後に受けられるようになっている 		

評価項目Ⅱ－２－(6)

事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 保護者や救急機関、地域への連絡体制が確立している。	
	○ 子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告し、記録している。	
	○ 職員会議などで事故の報告、再発防止策の検討が行われ改善策が実行されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ハンドブックに記載してある事故発生時の対応などで周知徹底し、小さなけがでも口頭と事故報告書、m t g ノート、引継ぎ連絡表などで、情報共有し記録している 		

評価項目Ⅱ－２－(7)

外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 不審者等の侵入防止策（出入り口の施錠等）が講じられている。	
	<input type="radio"/> 不審者等に対する緊急通報体制が確立されている。	
	<input type="radio"/> 不審者の情報が関係機関、近隣住民等から得られるネットワークができています。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 不審者対策のオートロックにより玄関が施錠されている ・ ALSOKを導入し、緊急対策をしている 不審者の対応マニュアルを作成し、共有するとともに、インターホン付近に掲示してある		

評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重

評価項目Ⅱ－３－(1)

保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、職員間で相互に配慮している。	
	<input type="radio"/> せかしたり強制したりせず、おだやかに分かりやすい言葉で話している。	
	<input type="radio"/> 子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもの人格を辱めるような罰を与えたり、自尊心を傷つけるような保育を行ってはいないことを、全職員が認識している。	
B	Aの中でいずれか2つ該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
ハンドブックや規定集に記載し共有し対応している		

評価項目Ⅱ－３－(2)

必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 友だちや保育士の視線を意識せず過ごせる場所がある。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて、子どもに威圧感を与えず一対一で話し合える場所がある。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて、プライバシーを守る場所を用意することができる。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
面談室があり、必要に応じて使用できるようにしてある		

評価項目Ⅱ－3－(3)

個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 守秘義務の意義や目的を全職員（ボランティア・実習生含む）に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり、全職員に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについて、保護者に説明し了解を得ている。	
	<input type="radio"/> 個人情報に関する記録は施錠できる場所に保管、管理している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育マニュアル、規定集に記載し、対応にあっている ・ 個人情報の保護に関する同意書を得ている ・ 実習生のマニュアルで対応 		

評価項目Ⅱ－3－(4)

性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていない。	
	<input type="radio"/> 順番、グループ分け、整列など性別にしている。	
	<input type="radio"/> 子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的にとらえた話し方、表現をしないようにしている。	
	<input type="radio"/> 無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、職員同士で反省する仕組みをついている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 父の日、母の日をなくし、ちょうど間の日程あたりに「ありがとうの日」として、保護者に対しての日として設定している ・ グループ分けは、子ども達のバランスを考え、年齢の割合で分けたりする ・ 園会議や週末mtg等で話し合うようにしている 		

評価分類Ⅱ－4 保護者との交流・連携

評価項目Ⅱ－4－(1)

保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者に対しては、全体会または懇談会などで説明する機会を設けている。	
	<input type="radio"/> 保護者に対して、園独自のアンケートなどで保育方針が理解されているかどうか把握している。	
	<input type="radio"/> 日常保育の中で、園だよりや連絡帳などで保育方針が理解されるよう努力している。	
	<input type="radio"/> 入園時に配布する園のしおりやパンフレットなどに保育方針を明記している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ しおりに保育方針等を記載している ・ 各イベント毎にアンケートをお願いし、意見を伺っている 見学時から保育方針等を説明し、進級説明会、懇談会では、各クラス単位での保育方針も明示している 		

評価項目Ⅱ－４－(2)

個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの送迎時に、その日の子どもの様子を伝えるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 連絡帳やメールなどできめ細かに情報交換を実施している。	
	<input type="radio"/> 保護者の意向を踏まえて個別面談を実施している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳でのやり取りに加え、活動内容表、口頭での連絡を実施している ・ 年2回個人面談を実施し、必要に応じて個別面談をしている ・ 毎月クラス便りを配布し、各クラスの様子や今後の展望などを記載している 		

評価項目Ⅱ－４－(3)

保護者の相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 相談内容などを人に聞かれないで相談できるよう、配慮している。	
	<input type="radio"/> 相談を受けた職員が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制になっている。	
	<input type="radio"/> 相談は記録し、継続的なフォローができています。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人面談シートを作成し、その相談事項に沿って面談をしている ・ 面談シートを保管し、次年度に引継ぎしている 		

評価項目Ⅱ－４－(4)

保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 「園だより」などを定期的に発行している。	
	<input type="radio"/> 園内に、その日の保育の様子を知らせる情報を掲示している。	
	<input type="radio"/> クラスごとの保護者懇談会などで、保育内容・目的を分かりやすく説明し情報提供を図っている。	
	<input type="radio"/> ビデオや写真などを撮って、日常の保育の様子を伝える努力をしている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 園便りを毎月発行 ・ 活動内容表により、おおまかなクラスの出来事を伝えている ・ 懇談会では、保育内容、保育方針等をまぜ、各クラスの展望などを話している ・ 写真販売委託会社にスナップ写真の販売をお願いし、普段の様子を写真を通して伺えるようにしている ・ HPに掲載し、日常の様子を、毎月公開している 		

評価項目Ⅱ－４－(5)

保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	次の全てに該当する。
	○	年間行事予定であらかじめ日時を知らせ、保護者が保育参加のための休暇等の予定を立てやすくしている。
	○	保育参観または保育参加を積極的に受け入れている。
	○	保育参観、懇談会等に出席できなかった保護者へのフォローを行っている。
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> 年間行事予定をしおりに掲載し、保護者参加のイベントは特に休みを調整しやすいようにしている 懇談会の内容は、こちらで記録したものを後日伝えている 		

評価項目Ⅱ－４－(6)

保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	次の全てに該当する。
	○	保護者が自主的な活動ができるように場所等の提供をしている。
	○	保護者の活動に要請があれば職員も参加をしている。
	○	保護者組織とは常にコミュニケーションをとっている。
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会は年1回開催し、意見交換をしている。 		

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

評価項目Ⅲ－１－(1)

地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	次の全てに該当する。
	○	地域住民との交流の中で、施設に対する要望を把握するための具体策を講じている。
	○	地域住民に対する相談事業を通じて把握している。
	○	必要に応じて関係機関や他施設との検討会・研究会を行っている。
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 地域子育てグループの会に参加し、情報共有等を行っている。 同一法人の事業のひとつで、就学前相談などが開催されていて、その告知などもかねて窓口になっている 		

評価項目Ⅲ－１－(2)

地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 地域の子育て支援ニーズについて、定期的（年に1回程度）に職員間で話し合われている。	
	<input type="radio"/> 地域での子育てを支援するためのサービス（一時保育、交流保育、園庭開放等）を提供している。	
	<input type="radio"/> 地域住民に向けて子育てや保育に関する講習・研修会を開催している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏祭りで地域住民の参加を呼びかけ、同時に育児相談等も受け付けている ・ 会議や週末mtg等で、情報交換等を行っている 		

評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能

評価項目Ⅲ－２－(1)

地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 情報提供や育児相談を実施している。	
	<input type="radio"/> 育児相談については、定期的（最低週に1回）に相談日を設けて対応している。	
	<input type="radio"/> 保育所からのお知らせを地域に回覧するなどして、情報提供に努めている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民への情報提供として、自由に取れる育児関係のパンフレットや冊子、お知らせ等を設置している ・ 地域交流施設と連携して、パンフレット等をお互いに掲示等を行っている。 		

評価項目Ⅲ－２－(2)

相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 必要な関係機関・地域の団体等をリスト化する等により情報を職員が共有している。	
	<input type="radio"/> 関係機関との連携の担当者が決められている。	
	<input type="radio"/> 関係機関・団体等との日常的な連携ができている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
区役所や児童相談所の担当がお互いに決め、定期的に電話等で連絡を取り合い、情報交換等をしている		

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

評価項目Ⅳ－１－(1)

保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所の行事に地域住民を招待している。	
	<input type="radio"/> 自治会・町内会、ボランティアグループ等と協力して行事を行うなど、地域の団体、機関と定期的（年1回以上）、計画的に交流を図っている。	
	<input type="radio"/> 小中高等学校など、学校教育との連携を積極的に図っている。	
	<input type="radio"/> 地域への施設開放や備品等の貸し出しを行っている。	
	<input type="radio"/> 近隣との友好的な関係を築くための取り組みを行っている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏祭りにて地域住民の参加を促し、施設内での遊びやイベントを一緒に楽しんでいる ・ 地域支援施設と連携して、情報交換等を行っている。 		

評価項目Ⅳ－１－(2)

子どもと地域との日常的な交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="checkbox"/> 地域の文化・レクリエーション施設等を利用している。	
	<input type="radio"/> 日常的に地域の人達と接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 日常的に他の園・学校・福祉施設等との交流を図っている。	
	<input type="radio"/> 地域の行事や活動に参加できるよう配慮している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の様々な公園へ遊びに行っている。 		

評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供

評価項目Ⅳ－２－(1)

将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所のパンフレット・広報誌・ホームページ等により、地域や関係機関に随時、情報を提供している。	
	<input type="radio"/> 外部の情報提供媒体に対して保育所の情報を提供している。	
	<input type="radio"/> 保育所として、すすんでサービス内容の詳細、料金、職員体制等、必要な情報を提供している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の育児支援施設にパンフレット等を置いていただいている。 ・ HP を公開 		

評価項目Ⅳ－２－(2)

利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。
	○	保育所の基本方針や利用条件・サービス内容等についての問い合わせに対しては、常時対応できるようになっている。
	○	利用希望者に見学ができることを案内している。
	○	保育に支障をきたさない範囲で、曜日や時間は見学希望者の都合に対応している。
B	保育所の基本方針や利用条件・サービス内容等について、パンフレット等の資料や文書に基づいて説明している。	A
C	上記のいずれにも該当しない。	
・ 見学案内を公開し、見学希望日程を決めてもらっている		

評価分類Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ

評価項目Ⅳ－３－(1)

ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。
	○	受け入れにあたり、あらかじめ職員や利用者にも基本的考え方・方針が理解されるよう説明している。
	○	受け入れと育成の担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。
	○	ボランティアの感想や意見を園運営に反映させている。
B	受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づきボランティアに対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。	A
C	受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。	
ボランティアマニュアルが作成されている。		

評価項目Ⅳ－３－(2)

実習生の受け入れを適切に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。
	○	受け入れにあたり、あらかじめ職員や利用者にも基本的な考え方・方針が理解されるよう説明している。
	○	受け入れのための担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。
	○	実習目的に応じた効果的な実習が行われるためにプログラム等を工夫している。
	○	実習生と職員との意見交換の機会を設けている。
B	受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づき実習生に対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。	A
C	受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。	
マニュアルが作成されている		

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類 V-1 職員の人材育成

評価項目 V-1-(1)

保育園の理念や方針に適した人材を育成するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 保育所運営に十分な人材構成であるかをチェックし、必要な人材の補充を逐次行っている。	
	○ 保育所の理念・方針をふまえた保育を実施するよう、人材育成の計画が策定されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新人スタッフを含めた、人材育成のチェックシートを作成している、また異動者を含めた不慣れなスタッフに対しても、面談を設定し聞き取りを行っている ・ 全園研修にはじまり、人材育成のカリキュラムが組み立てられている ・ 毎月発行の運営要項にて、保育に関わる内容を学習、情報交換できるように記載されている 		

評価項目 V-1-(2)

職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 内部研修が定期的に実施され、職員・非常勤職員とも必要な職員が必ず受講できる。	
	○ 園外の研修会、大会等への参加、他の福祉施設での実地研修等が積極的に行われている。	
	○ 研修の成果を職場で活かすための工夫がされている。	
B	職員の研修ニーズにも配慮し、研修担当者が研修計画を作成している。	
C	保育所としての研修計画を作成しておらず、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修計画を各自設定し、目的に沿った研修を受けられるように選択して研修を受けられるようにしている ・ 全園研修が毎年1度あり、どのスタッフも必ず受講できるようになっている ・ 毎月発行の運営要項に、保育関係に役立つ資料やテキスト等が掲載され、毎月研修ができるようにしている 		

評価項目 V-1-(3)

非常勤職員等にも日常の指導を行っているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 業務にあたっては職員と非常勤職員の組み合わせなどの配慮をしている。	
	○ 非常勤職員に対し、職員と同様に資質向上への取り組みを行っている。	
B	非常勤職員にも業務マニュアルが配布されている。	
C	業務マニュアルもなく、取り組みが不十分である。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 常勤、非常勤共に保育マニュアルが配布され、なるべく仕事の内容で区別無く取り組めるように配慮してある ・ 研修等の指導も、常勤スタッフと同じように、保育ハンドブック、規定集、運営要項の配布、面談、研修報告等を行っている ・ 非常勤職員の指導担当は社員が担当し、定期的に指導コミュニケーションをとっている 		

評価分類V-2 職員の技術の向上

評価項目V-2-(1)

職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 職員の自己評価や、保育所の自己評価を計画的に行う仕組みを持っている。	
	○ 工夫・改善した良いサービス事例をもとに、一層のサービス向上を目指した会議・勉強会が開かれている。	
	○ 必要に応じて外部から保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
スタッフできたかな表により、自己評価をできるシステムができている 全園研修や、保育実践シートの導入、保育ハンドブック、規定集の周知徹底、運営要項による保育内容の学習機会が設けられている		

評価項目V-2-(2)

保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 保育士等一人一人が、自己評価し、それを文章化できるように計画や記録の書式が定型化されている。	
	○ 自己評価は、計画で意図した保育のねらいと関連付けて行われている。	
	○ 保育の自己評価は、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの育ちや意欲、取り組む過程などを重視して行っている。	
○ 保育士等一人一人が自己評価を通して、自己の実践の改善やその後の計画作成に反映させている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実践シートの導入により、保育内容のふりかえりをしている ・ スタッフできたかな表での自己評価 		

評価項目V-2-(3)

保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 保育士等の自己評価の結果を互いに報告し合い、話し合っている。	
	○ 保育士等の自己評価の結果から、保育所としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいる。	
	○ 保育所としての自己評価は、保育所の理念や保育の方針、保育課程に沿って行われている。	
○ 保育所としての自己評価を公表している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない	
<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフできたかな表により、自己評価や今後の本人課題、園の課題を明確にしている ・ 本人の苦手分野などの意見を個別に集約し、改善や指導を行っている ・ 自己点検・自己評価シートに沿って、保育方針等のチェックを行っている 		

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持

評価項目V-3-(1)

本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されている。	
	<input type="radio"/> 利用者の状況に応じ自主的に判断できるように、現場の職員に可能な限り権限を委譲し、責任を明確化している。	
	<input type="radio"/> 職員から業務改善の提案を募ったり、意見を聴取するためのアンケートなどを実施している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> 毎年2回は施設長との個別面談を行い、意見交換、要望などを聞いている スタッフできたかな表にて、経験や能力に応じた、期待水準等が明文化されている 保育ハンドブックや規定集にて、責任や権限を明確化している 		

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任

評価項目VI-1-(1)

事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法・規範・倫理等が明文化され職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 経営、運営状況等の情報が積極的に公開されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 社内報により、会社全体としても運営状況を公開している 社員、非常勤等の規則、保育ハンドブック、規定集により、規範等が明文化されている 月間運営要項により、事故報告等を全園で共有している 		

評価項目VI-1-(2)

サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っている。	
	<input type="radio"/> 省エネルギーの促進・緑化の推進などの取り組みを行っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別、廃材の保育利用等を行っている 節電対応の規則や、イベントを催し、進んで取り組めるように会社全体で努力している 夏の制服をTシャツ着用を許可し、こまめに取り替えられることで、節電対応等を行っている 園庭等にてプランターで草花や野菜等を育てている 		

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等

評価項目VI-2-(1)

保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 理念・基本方針を明文化したものを掲示または職員に配布している。	
	<input type="radio"/> 職員に朝礼・会議等で周知し、理解を促すための説明をしている。	
	<input type="radio"/> 理念・基本方針を職員が理解できているか、園長・主任が定期的（採用時1回、採用後は最低年1回）に確認している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 保育マニュアル、規定集を配布し、新年度や月の会議等にて、読み合わせ確認等を行っている 		

評価項目VI-2-(2)

重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 重要な意思決定にあたり、園長は保護者と継続的に意見交換をしている。	
	<input type="radio"/> 重要な意思決定（変更）について、職員及び保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を十分に説明している。	
	<input type="radio"/> 異なる部門の職員による検討チームを編成し組織をあげて取り組むしくみがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 施設長会議等によって、各園の施設長の意見を集約し採決する機会も設定されている WEB会議等で、その都度意見交換ができるようになっている 園内だけで収まらない内容などは、エリアmtgにて系列園との兼ね合いも含めて検討議題にあげる 		

評価項目VI-2-(3)

主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> スーパーバイズのできる主任クラスを計画的に育成するプログラムがある。	
	<input type="radio"/> 主任が個々の職員の業務状況を把握できるしくみがあり、有効に機能している。	
	<input type="radio"/> 主任は個々の職員の能力や経験にあわせた確かな助言や指導を行っている。	
<input type="radio"/> 主任は個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう、具体的な配慮を行っている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
年数回の副施設長研修（チーフ参加あり）の開催 <ul style="list-style-type: none"> ミーティングノートにより、全職員の健康状態を把握できるようにしている 副施設長研修の内容を、研修として月の会議等で反映させ、指導、助言にあたっている 昼礼にて、毎日のクラスの様子、行事担当の進捗状況、係の進捗状況等の確認をしている		

評価分類VI-3 効率的な運営

評価項目VI-3-(1)

外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 事業運営に影響のある情報を収集・分析している。	
	○ 重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている。	
	○ 運営面での重要な改善課題について、職員に周知し、保育所全体の取り組みとしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
<ul style="list-style-type: none"> 施設長会議、エリアmtg等で、重点課題を確認、共有して改善策等を検討している 		

評価項目VI-3-(2)

保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	○ 中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している。	
	○ 次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たなしくみを常に検討している。	
	○ 次代の施設運営に備え、幹部職員は計画的に後継者を育成している。	
	○ 運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
<ul style="list-style-type: none"> 保育マニュアル、防災訓練、パレット学習タイム等、保育園に関わる内容の検討委員が設置され、定期的に会議を行っている 副施設長研修の候補生を募集するなどして、後継者育成の足がかりをつくっている 		

施設のアピールポイント及び課題

	アピールポイント	課題
I 利用者 本人の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・理念である1つ目の感性を育むには、公園での季節の移り変わりを共に感じる。(秋は、ドングリを拾いなどの秋の遊びを教える) ・次に知性としては、会社独自のパレット学習タイムという時間を設け、子どもの考える力を伸ばす保育を行っている。また年長、年中クラスでは学習塾よりテキストをいただき、文字、計算などが出来るようになるまでの内容が3冊セットで配布される。 ・体力としては、毎朝体操を取り入れている。年少から年長クラスは、運動カリキュラムを行っている。 ・家庭環境を把握し、保育に望んでいる。(夜遅いお迎えの子どもには、親との触れ合いが少なくなってしまうがちなので、抱っこの回数を増やしてみるなど) ・子どもが慣れるまでは担任のシフトを変え、工夫している。 ・少人数だからこそ、見通しのある保育を行っている。(個別の保育を心がけている。) ・夕方の合同保育など、こっこ遊びやブロック遊びを通して異年齢児の交流の場を設けている。 	
II サービス の実施内容	<p>普段の保育から、常時園外保育が実施され、戸外へ散歩に行くことを生活の中心としています。近隣の色々な公園へ足を運び、色々な遊具などを体験することができ、適応能力も豊かになってきます。</p> <p>また地域の方にも夏祭りのイベント等へ呼びかけることで、関係性も深くなってきました。</p> <p>さらに会社全体の事業として、幼児教室、学習塾の系列があり、そことの連携により幼児教室体験や(パレット学習タイム)、小学校準備講座(テキスト)の配布があり、保育園にしながら学習へのステップもしっかりと確立されているところが、大きなポイントになります。</p>	
III 地域支 援機能	<p>近隣の育児支援施設「たかたんのいえ」と関係を築きだしている。</p> <p>また会社の関連事業からの(幼児教室、学習塾)情報提供や、地域の諸情報の冊子などを配布し、地域の活性化をしている</p>	
IV 開かれ た運営	<p>HPでの情報公開をしている。</p> <p>実習生を受け入れる環境は整っている。</p> <p>また、園見学は基本的に希望日程で行えるよう配慮し、何度でも見学等していただけるようにしている</p>	

<p>V 人材育成・援助技術の向上</p>	<p>毎月の運営要項により、保育内容の振り返り、保育関係の情報共有、マニュアルや指針を使用した学習ページなどで、保育の質の向上を図っている また全園集まっての研修も年に一度あり、研修にたいして積極的に活動できるように配慮されている</p>	
<p>VI 経営管理</p>	<p>施設長会議、運営m t g、エリアm t g等の会議を設けて、運営、経営に関してチェックを行い、改善をしていけるシステムが確立されている。 また会社として保育運営部も存在し、系列園との兼ね合いなども考慮した管理も行っている</p>	